



ひょっとこ踊りで場内大爆笑

晴れの舞台で演じる

「チャリティー芸能大会」

6月19日(日)総合福祉センター「いこい荘」でふれあいチャリティー芸能大会が行われました。

43組の総勢100人を超える出演者が、日ごろの練習の成果を発表しました。観客は、春の農作業も一段落し、心地よい「癒し」を求め、日舞、踊り、詩吟、カラオケなど多彩な芸能を満喫し、特に招待団体の日野高校の荒神神楽には、身を乗り出して神話の世界を楽しみ、盛大な拍手を送りました。

なお、この芸能大会で集まった募金151,500円は、町内の小中学校と社会福祉協議会に寄付されました。



腹のそこから大笑い



迫力ある荒神神楽

まちの話題

二町交流フェスティバル

6月25日(土)とっとり花回廊前駐車場で南部町、伯耆町の二町交流フェスティバルが行われました。両町とも合併し、新たな名前になってから初めてのフェスティバルとなり、大勢の人出でにぎわいました。

ウォークラリーでは暑さの中、ブルーベリー農園に立ち寄るコースを50名が歩き、ビンゴゲームではビンゴがそろった時に歓声が上がっていました。また、観光で訪れていた女性は、「野の花」の特産品の安売りに出会い大喜びでした。



なにが当たるか楽しみ



手で植えるのって難しいな

一列に植えられたかな

～ 会見小学校で田植え体験 ～

総合授業の一環と、食の教育をかね、6月13日(月) 会見小学校の5年生(32名)と6年生(34名)が田植え体験の実習を行いました。

児童たちは、井田真樹さん(上野)の指導のもと、古代米の「みどり米」ともち米の「はくともち」を植えました。古代米は、穂が黒く実ることから、収穫時に良くわかるように「会」の字のかたちに植えられました。初めて田んぼに入ったという児童も多く、途中、足をとられ動けなくなる子もいました。5年生の山下洗樹君は「初めて田んぼに入った。足がぬるぬるして気持ち悪かった。」と感想を話してくれました。田んぼにはカブトエビやおたまじやくしなどもみられ、児童たちにとって貴重な体験となりました。

見とこ・知つとこ

日々好日

みんなの南部

丈夫な歯をめざして

～ すみれ保育園で歯みがき指導 ～

すみれ保育園では、6月8日(水) 西伯病院の指導により歯みがき指導を行いました。年中児以下は虫歯ができるお話を聞き、年長児の27名が指導を受けました。

園児は、一度磨いた後でもみがき残しがあることを確認し、しっかりと歯みがきをすることを学びました。初めてカラーテストをした園児は「イチゴの味がする。」と楽しみながら、指導を受けました。

園長先生は「年長児になると虫歯も増えてくるので、家庭での歯みがきの大切さと早期の治療をお願いしたい」と話をされました。



奥のほうまでみがきましょう

観光に一肌脱ぐ

～ ふるさとガイド専門講座 ～

南部町のすばらしさを再認識し、南部町の歴史や文化財を紹介していく「ふるさとガイド案内人」を組織することを目的とした、南部町ふるさとガイド専門講座が、6月18日(土) いこい荘で開かれました。

開講式で発起人を代表し、岡田昌孫さん(市山)が「ふるさと回帰の時代です、広くなった南部町のすばらしさを再認識しましょう」とあいさつし、さつき第1回の講座に臨みました。講座には、募集定員25名に対し、35名の申し込みがあり、関心の高さが伺えました。

受講生はさつき第1回の講座にのぞみ、古代史について学びました。来年度には、実際に案内人として活動できることを目指し、来年三月まで毎月一回合計10回の講座を受けます。



真剣に歴史を学ぶ